

ボカシ容器の使いかた

ボカシ容器とは

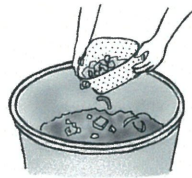
密閉式の容器で、生ごみを入れて、**ボカシを混ぜながら処理するもの**です。その処理した生ごみを地中に埋め込み、熟成（たい肥化）させます。

※容器は1セット支給します。ボカシが無くなった場合はホームセンター等でご購入ください。

使用方法

① 生ごみを入れる

生ごみをよく水切りし、できるだけ小さくして、平らになるように入れます。貝殻、骨、ビニール、プラスチック類等（分解が困難なもの）は入れないでください。



② ボカシをかける

生ごみ 1kg（台所で利用している三角コーナー容器一杯が約 700g）に対し、ボカシを 30g（大さじ 3 杯程度）を均一に振り掛けます。

※夏はボカシを多めにふりかけてください。



③ ふたをしっかり閉める

ボカシ内の発酵菌は、空気に触れるほど働きが鈍くなる微生物です。ふたを閉める際はしっかり閉めることで、悪臭や虫の発生を防ぐことができます。

※毎日出る生ごみの処理は①～③を繰り返してください。

※直射日光の当たらない場所で使用・保管してください。



④ 液抜きをする

こまめに下部のダイヤル（コック）を回して液を出します。液を溜めたままにすると、生ごみの腐敗・悪臭の原因になります。



※排出液について・・・配水管などのヌメリ取りや悪臭防止ができます。また、500倍から1000倍に薄めると液肥としても使用できます。使用の際は植物の周りの土にかけようようにしてください。

なお抽出後はその日のうちに使用するか処分してください。悪臭や虫の発生原因になります。

容器が一杯になったら

① フタをしっかりと閉め、直射日光が当たらないようにして1週間以上保管して発酵させます。（1次発酵）
※1次発酵の間もこまめに液抜きを行ってください。（ぬか漬けの様な酸味のある臭いがしたら成功です。）
なお、この段階で形に変化は見られません。

② 1次発酵後の生ごみは、そのままたい肥として使用せず、土の中に埋めこんで下さい。1～2ヶ月後、たい肥として使用できます。（2次発酵）
※生ごみの形が無くなっていたら、たい肥として使用できるサインです。

③ たい肥の使い方

①畑の場合・・・うねとうねの間に埋めます。

②庭の場合・・・たい肥が植物の根にあたらない様に、真下ではなく周辺に埋めます。

③プランターの場合・・・たい肥と土を1:4の割合で混ぜたものを土と土の間に埋めて使用してください。

《ボカシ容器・6つのポイント》

- ①容器の使用・保管は直射日光を避けましょう。
- ②生ごみを投入する前にしっかり水切りをしましょう。
- ③夏の時期はボカシを多めにかけましょう。
- ④ふたはしっかり閉めましょう。
- ⑤液抜きはこまめに行いましょう。
- ⑥購入したボカシ菌は空気が入って働きが鈍くならない様に密閉して保存しましょう。



《問い合わせ先》

宇佐市 生活環境課 リサイクル推進係 ☎ 0978-27-8133